

## 総務委員長報告

令和4年9月定例会（10月11日）

総務委員長報告をいたします。

今定例会において総務委員会に付託されました議案のうち、既に9月8日に報告いたしましたものを除く議案の審査結果等について報告いたします。

本委員会に付託されました議案は、「職員の高齢者部分休業に関する条例」など条例案2件、「財産の取得について」など一般事件案2件、「令和4年度島根県一般会計補正予算（第4号）」など予算案6件であります。

これらの議案について、執行部に説明を求め、慎重に審査いたしました結果、いずれの議案も全会一致をもって、原案どおり可決すべきとの審査結果でありました。

次に、議案の審査過程における執行部からの説明、委員からの質疑、意見等のうち主なものについて報告いたします。

第85号議案「令和4年度島根県一般会計補正予算（第4号）」のうち、政策企画局所管分についてであります。

「しまねのイメージ発信事業」について、委員から、地方への移住に関心のある都会の若者向けにプロモーションを展開する上では、島根県を移住先の選択肢の一つとしてではなく、是非とも移住先として選んでもらうという気概を持って取り組んでほしいとの意見があり、執行部からは、島根県に興味を持ってもらい最終的には移住してもらえるよう広報内容を検証し、情報発信強化に努めていきたいとの回答がありました。

また、委員から、ラジオ放送はCMが流れたその瞬間を聞き逃すと内容を聞き返したり調べたりすることができないので、その後につながるような方法を検討してほしいとの意見や、ポスター広告より動画広告の方がイメージを伝えやすいと思うので動画広告に重点を置いてはどうかとの意見、またイメージ事業の効果はすぐには出ないと思うので根気強く取り組んでほしいとの意見がありました。これに対して執行部からは、ラジオ放送については、番組のホームページから関連サイトへの誘導を検討し、その他の情報発信については、これまでのアンケート結果を参考にして今後も島根のイメージを伝えやすい発信方法を検討し、工夫しながら広報に取り組んでいきたいとの回答がありました。

次に、請願の審査結果について報告いたします。

このたび新規に提出された請願第47号は、島根県議会において平成25年6月26日付で決議された「日本軍「慰安婦」問題への誠実な対応を求める意見書」を無効とする決議を求めるものであります。

委員からは、本請願の背景には日韓の外交問題があり、様々な意見があろうかと思われるが、それらの意見は政府に対して言うべきことである。県議会の意見書は政府見解に基づき、女性の人権、人間の尊厳に関わるものとして誠意ある対応を求め政府に提出したものであるので無効とする必要はないとの意見がありました。また別の委員から、日韓の外交問題である慰安婦問題や徴用工問題などを含め、日韓双方で合意したことをどのように進めていくべきか、未来志向の内容の意見書を国に提出することの方が意味があるとの意見がありました。最終的には挙手採決の結果、賛成少数により「不採択」とすべきとの審査結果でありました。

なお、継続審査中の請願については、いずれも現状に大きな変化がなく、結論に至る状況にないことから、引き続き「継続審査」とすべきとの審査結果でありました。

次に、報告事項など所管事項調査における質疑、意見等のうち主なものについて申し上げます。

まず、総務部所管事項についてであります。

執行部から報告のありました「新型コロナウイルス感染症に伴う業務見直し状況について」では、委員から、今回の全庁的な業務見直しにおいて業務を延期や中止することでの予算への影響を把握する必要があるので、どのくらいの額が不用となるか調査し報告してほしいとの意見があり、執行部からは、内容を精査し年度内に確実に中止となる事業の予算額について報告することを検討したいとの回答がありました。

次に、地域振興部所管事項についてであります。

委員から、小さな拠点構想を進めていく過程で、過疎化・高齢化により拠点を維持していくためのエリアが少しずつ拡大していくことで中心となる拠点も変化していく。それにより拠点同士をつなぐ幹線道路整備の優先順位が変わっていくと思われるので、道路事業との連携が必要であるとの意見がありました。

次に、警察本部所管事項についてであります。

委員から、安倍元首相が銃撃された事件への対応として、警察庁では警護について検証され、新たな警護要則が制定されたとのことだが、今後の警護についてどのように取り組んでいくのかとの質問があり、執行部からは、新たな警護要則に基づき警察庁と緊密に連携を取りながら実効性のある警護計画を策定し警護を行っていく。また警護後は途中のプロセスを振り返り、改善点がないか検証を行い、次の警護に活かすなど、安易な前例踏襲とならないよう万全を期して取り組んでいきたいとの回答がありました。

以上、総務委員会における審査の概要等を申し述べ、委員長報告といたします。